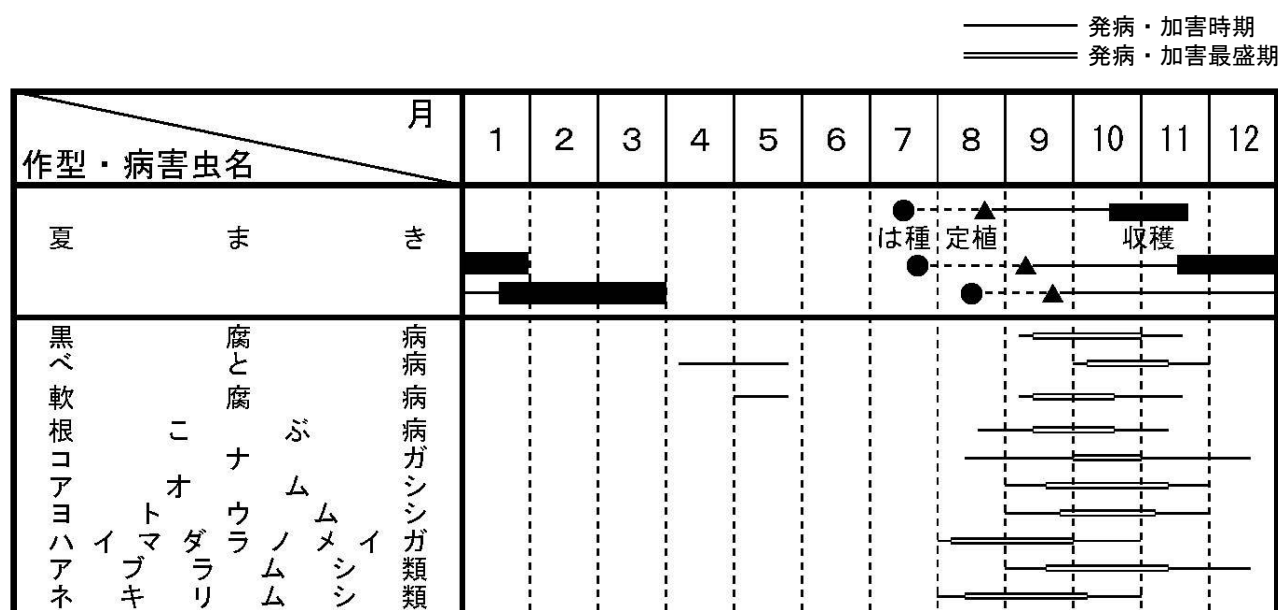


ブロッコリー

農薬取締法上「ブロッコリー」と「茎ブロッコリー」は別作物である。茎ブロッコリー（スティックセニョール等）には、「茎ブロッコリー」、「はなやさい類」「あぶらな科野菜（花蕾及び茎）」「野菜類」に適用のある農薬を使用すること。

また、「ロマネスコ」「さんごしょう」等は「カリフラワー」に適用のある農薬を使用すること。



黒腐病

留意事項

- 1 種子・土壌伝染する。
- 2 9～10月に低温で発生しやすい。
- 3 キノンドー水和剤40、カスミンボルドー、銅シン水和剤は、水産動植物に強い影響を及ぼす恐れがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- 4 キノンドー水和剤40、カスミンボルドー、銅シン水和剤は、眼に対して強い刺激性があるので眼に入らないよう注意する。
- 5 台風や大雨・強風直後の薬剤散布は特に効果が高い。

防除方法

- 1 無病種子を用いる。
- 2 あぶらな科野菜の連作を避ける。
- 3 被害葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 4 定植時に、下記の薬剤を施用する。

・ **オリゼメート粒剤** P2 【6～9kg/10a 全面土壌混和 定植時／1回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

5 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を予防的に散布する。

- ・ [キノンドー水和剤40](#) M 1 【800倍 14日／3回】

6 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [カスミンボルドー](#)、[銅パーシン水和剤](#) M 1 2 4 【1,000倍 7日／4回】

べと病

留意事項

- 1 春・秋に低温・多雨の年で発生が多い。
- 2 アミスター20フロアブルは、浸透性を高める展着剤を加用しない（薬害）。
QoI剤（1 1）は、耐性菌が生じやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 排水を良好にし、密植を避ける。
- 2 窒素質肥料の多用を避ける。
- 3 被害葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 4 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
 - ・ [ダコニール1000](#) M 5 【1,000倍 出蕾前（21日）／2回】
 - ・ [ランマンフロアブル](#) 2 1 【2,000倍 3日／3回】
 - ・ [ピシロックフロアブル](#) U 1 7 【1,000倍 前日／2回】
 - ・ [ライメイフロアブル](#) 2 1 【2,000～3,000倍 7日／4回】
- 5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アミスター20フロアブル](#) 1 1 【2,000倍 3日／3回】
 - ・ [レーバスフロアブル](#) 4 0 【2,000倍 7日／2回】

軟腐病

留意事項

- 1 バイオキーパー水和剤は軟腐病菌の拮抗微生物を成分とする。
- 2 台風や大雨・強風直後の薬剤散布は特に効果が高い。
- 3 Zボルドーは、水産動植物に強い影響を及ぼす恐れがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- 4 Zボルドー水和剤は、眼に対して強い刺激性があるので眼に入らないよう注意する。

防除方法

- 1 あぶらな科野菜の連作を避ける。
- 2 過度の早植え（8月）は避ける。
- 3 排水を良好にし、密植を避ける。
- 4 被害葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。但し、接触伝染するので、被害株を触った後で、健全株には触らないようにする。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 5 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
- ・ [バイオキパー水和剤](#) —(生)
【野菜類(除かぼちゃ、ズッキーニ) 500~2,000倍 発病前~発病初期/—】
 - ・ [Zボルドー](#) M1 【野菜類(除キャベツ) 500~1,000倍 —/—】
- 6 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
- ・ [スターナ水和剤](#) 31 【2,000倍 14日/2回】

根こぶ病

留意事項

- 1 酸性で排水不良のほ場に発生が多い。
- 2 ネビリュウの成分フルスルファミドの総使用回数は1回以内。
- 3 ランマンフロアブルの成分シアゾファミドの総使用回数は5回以内(但し、育苗期のかん注は1回以内、本ぽでの株元かん注は1回以内、散布は3回以内)。
- 4 オラクル粉剤の成分アミスルブロムを含む農薬の総使用回数7回以内(但し、土壌混和は2回以内、かん注は1回以内、散布は4回以内)。

防除方法

- 1 あぶらな科野菜の連作を避ける。
- 2 石灰質肥料を施用して、pH6.5~7.2に土壌酸度を矯正する。
- 3 排水を良くし、過湿を避ける。
- 4 有機質資材を施用し、土づくりに努める。
- 5 秋まきの場合は早まきを避ける。
- 6 は種または、定植前に下記の薬剤を施用する。
 - ・ [ネビリュウ](#) 36
【20kg/10a 作条土壌混和 は種または定植前/1回】または
【20~30kg/10a 全面土壌混和 は種または定植前/1回】
 - ・ [フロンサイド粉剤](#) 29
【15~20kg/10a 作条土壌混和 は種または定植前/1回】または
【30~40kg/10a 全面土壌混和 は種または定植前/1回】
 - ・ [オラクル粉剤](#) 21
【20kg/10a 作条土壌混和 定植前/2回】
【30kg/10a 全面土壌混和 定植前/2回】
 - ・ [ランマンフロアブル](#) 21
【500倍 定植前日~当日 2L/セル成型育苗トレイ1箱
または ペーパーポット1冊(30×60cm、使用土壌約2.5~7L) かん注/1回】
- 7 本ぽで下記の薬剤を施用する。
 - ・ [ランマンフロアブル](#) 21 【2,000倍 株元かん注(250ml/株) 14日/1回】

注1: 同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2: 異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

コナガ

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- 2 スタークル粒剤、アルバリン粒剤の成分ジノテフランの総使用回数は3回以内（但し、定植時の土壌混和及びかん注は合計1回以内、散布及び無人航空機散布は合計2回以内）。
- 3 プリロッソ粒剤、ベネビアOD、ベリマークSCの成分シアントラニリプロールの総使用回数は4回以内（但し、定植時までの処理は1回以内、定植後の処理は3回以内）。

防除方法

- 1 下記の薬剤を施用する。
 - ・ [スタークル粒剤](#)、[アルバリン粒剤](#) 4 A 【2g/株 植穴土壌混和 定植時/1回】
- 2 下記の薬剤を、セル成型育苗トレイ（培土）に処理する。
 - ・ [ベリマークSC](#) 2 8
 【400倍 0.5 L/セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（約30×60cm、使用土壌約1.5～4L） かん注 育苗期後半～定植当日/1回】
 - ・ [プリロッソ粒剤](#) 2 8
 【50g/セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（約30×60cm、使用土壌約1.5～4L） 本剤の所定量をセル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から均一に散布する 育苗期後半～定植当日/1回】
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ディアナSC](#) 5 【2,500～5,000倍 前日/2回】
 - ・ [グレースシア乳剤](#) 3 0 【2,000～3,000倍 7日/2回】
 - ・ [ベネビアOD](#) 2 8 【2,000～4,000倍 前日/3回】
 - ・ [アフーム乳剤](#) 6 【1,000～2,000倍 3日/3回】
 - ・ [アクセルフロアブル](#) 2 2 B 【1,000倍 前日/2回】
 - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 1 3 【2,000倍 3日/2回】
 - ・ [BT剤](#) 1 1 A （IX野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照）

アオムシ

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [グレースシア乳剤](#) 3 0 【2,000～3,000倍 7日/2回】
 - ・ [ベネビアOD](#) 2 8 【2,000～4,000倍 前日/3回】
 - ・ [アフーム乳剤](#) 6 【1,000～2,000倍 3日/3回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [ディアナSC](#) 5 【2,500～5,000倍 前日／2回】
- ・ [トレボン乳剤](#) 3 A 【1,000～2,000倍 前日／3回】
- ・ [BT剤](#) 1 1 A (IX野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照)

ヨトウムシ

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [グレーシア乳剤](#) 3 0 【2,000～3,000倍 7日／2回】
 - ・ [フェニックス顆粒水和剤](#) 2 8 【2,000～4,000倍 前日／2回】
 - ・ [アフーム乳剤](#) 6 【1,000～2,000倍 3日／3回】
 - ・ [ディアナSC](#) 5 【2,500～5,000倍 前日／2回】
 - ・ [アクセルフロアブル](#) 2 2 B 【1,000～2,000倍 前日／2回】
 - ・ [BT剤](#) 1 1 A (IX野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照)

ハイマダラノメイガ（ダイコンシンクイ）

留意事項

- 1 だいこん等あぶらな科作物を加害する。
- 2 7～10月が高温少雨の年に多発する傾向がある。
- 3 食入前の防除に努める。

防除方法

- 1 育苗中の苗は寒冷しゃ等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- 2 定植には健全苗を使用し、本ぼへの幼虫の持ち込みを防ぐ。
- 3 下記の薬剤を、かん注処理する。
 - ・ [ベリマークSC](#) 2 8
 【400倍 0.5L／セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(約30×60cm、
 使用土壌約1.5～4L) かん注 育苗期後半～定植当日／1回】
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を薬液が芯葉に届くよう丁寧に散布する。
 - ・ [グレーシア乳剤](#) 3 0 【2,000～3,000倍 7日／2回】
 - ・ [ディアナSC](#) 5 【2,500～5,000倍 前日／2回】
 - ・ [フェニックス顆粒水和剤](#) 2 8 【2,000～4,000倍 前日／2回】

アブラムシ類

防除方法

- 1 下記の薬剤を施用する。
 - ・ [スタークル粒剤](#)、[アルバリン粒剤](#) 4 A 【2g／株 植穴土壌混和 定植時／1回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用时には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [ベリマークSC](#) 28
【400倍 0.5L／セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（約30×60cm、
使用土壌約1.5～4L） かん注 育苗期後半～定植当日／1回】
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
- ・ [コルト顆粒水和剤](#) 9B 【4,000倍 前日／3回】
- ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 4A 【2,000倍 14日／3回】
- ・ [トランスフォームフロアブル](#) 4C 【2,000倍 前日／3回】

ネキリムシ類

防除方法

- 1 下記の薬剤を施用する。
- ・ [フォース粒剤](#) 劇 3A 【4kg／10a 全面土壌混和 定植時／1回】
 - ・ [ネキリエースK](#) 1B
【3kg／10a 土壌表面株元処理 定植時～生育初期（14日）／4回】
 - ・ [アクセルベイト](#) 22B 【3～6kg／10a 株元散布 前日／2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。